

授業改善等に関する報告書（2025年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2025（後期）環境デザイン学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
基礎演習c	塩原 みゆき	今年度はこれまでになく、本来の目的であった1年生が履修してくれ、双方の授業に満足してくれた。学生自身の自身の成績に対しては厳しめな評価であったが、十分に基礎を理解してもらったように思う。
統計の基礎	加藤木 秀章	多様な分野の統計データが膨大になり、人の処理能力以上の加速された社会の動きが今後みられます。実感するとより学修効果が高くなるため、少しだけ意識してみてください。
人体生理学	佐藤 健	途中、私事にてお休みをいれてしまい申し訳ございませんでした。その代わり、実際に実験室で測定ができたので、理論と実践ができたと感じています。特に、心電図12誘導は、重要な生理検査なので、夏にプールや海水浴に行く前に自分で測定して確認していただけます。
繊維高分子材料学	加藤木 秀章	わかったことやわからないこともあったかもしれません。日々の学修はきっと役に立ちます。身近なものなどにふれるとより学修に効果的です。
アパレル製作基礎演習	滝澤 愛	<p>本授業は服飾造形の基礎、初めの1歩となる科目であり、例えば初回から8回目程度まで「きれいに縫うための基礎の基礎（文化出版局）」から抜粋した、“基礎の基礎”である内容を一つずつ確実に習得していく内容であった。しかし、登録者が22名いたのに対し、その基礎的内容の授業で、学生が次々に姿を消していったのには驚かされた。結局最後までやり切った学生は6名で、何れも無欠席の学生であった。他の担当授業でも同じ傾向であるが、ファッションに対するやる気の2極化が著しい。</p> <p>全出席2名の回答と思しき結果をみると、 ・この授業を通じて、自身の成長が実感できましたか？：とてもよくあてはまる2名 ・総合的に判断してこの授業に満足しましたか？：とてもよくあてはまる2名 ・あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか？：とてもよくあてはまる2名</p> <p>など、フル受講し、課題を完遂させた学生は成長や満足を感じており、この点は非常に良かったと考える。単位取得学生は、この半期で多くの造形、パターン技術が身についたと思われ、今後もその基礎の上に、更なる高度な技術を是非とも培っていただきたい。本当によく頑張りました。</p>
ファッションドローイング	滝澤 愛	<p>授業アンケートの回答は3名のみ、内1人は欠席が4回以上と回答しており失格、また、もう一人も2回欠席、残りの一人も1回欠席と、実際のところの授業アンケート結果としては非常に乏しいものであった。というのも、最後までやり切り、単位認定をした5名は1回も欠席をしなかった学生が主であったからである。</p> <p>アンケートを回答しなかった、無欠席でやり抜いた学生に対しては、本当によく頑張ったことを褒めたい。その多くが建築分野を目指す学生であったが、習得したデザイン画の描き方、デザインメソッド、ポートフォリオのまとめ方、最終の相手に伝えるプレゼンテーションは、異分野のデザインでも共通する部分が多々あるので、是非とも今後活かしてください。</p> <p>さて、昨年度も同じことを書いたが、本授業の内容は、同時期に他大学でも1日違いで全く同じ内容の授業を行っており、既に10数年間、ブラッシュアップしながら続けている。</p> <p>重ね重ねであるが、昨年度も同じ言葉を書いたが、頑張っで最後まで完成させた人は、このまま、人に流されず頑張り抜くことを貫いてください。</p>
ファッションビジネスの世界	大川 知子	<p>3ヶ月間の授業、お疲れ様でした。「聞いて終わり」の授業では無い為、みなさん、大変だったと思いますが、総じて熱心に受講いただき、ありがとうございました。</p> <p>教室の中で出来ることは限られていますが、一歩外に踏み出すと、リアルな今が手に取るように分かります。最初はよく分からなくても、学びを通じて、段々腑に落ちて分かるようになります。それには一定の時間と場数が必要です。</p> <p>「ファッションビジネス」の学びは、みなさんが興味のある分野にも、十分応用が可能です。「この業界のビジネスはどうなっているのか」等、引き続き是非、アンテナを高く学んで下さい。</p>
住居デザイン論	橋 弘志	<p>オンデマンドで行っている住居デザイン論、いかがだったでしょうか。前期の住居学と連続するところもありますが、より住宅や室内環境のデザイン（規模や形態や配置や構成や…）に関わる話を、なるべく身近な例やイメージしやすい例を用いて、分かりやすく示すことを目指しています。ただ一方的に話を聞くだけでなく、自分でも作業してみたり、考えてみたりすることで、理解が深まるのではないかと思います。そして住居のデザインに興味が出たら、今度は自分でできるだけいろんな事例に触れてみてほしいと思います。</p>

[2025（後期）環境デザイン学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
建築構造	橋 弘志	<p>建築構造（構造力学）は何といても基礎からの積み上げが大事です。前回の授業の上に今回の授業があり、次回へと繋がっていきます。予習復習をきちんとこなしていた人は、スムーズに理解が進んだのではないかと思います。しかし、その日の授業だけ聞くだけの人は、分からないまま進んでいることになったでしょう。問題を解く際に、きちんと自分で図を描いて、基本に沿って式を書いているかどうか、成績に直結していると思います。</p>
ワークショップ演習	一色 ヒロタカ	<p>ワークショップ演習の授業の中では、教科書を使用した座学と実践的なワークショップ演習を実施しました。</p> <p>座学により、ワークショップの手法や実践例を体系的に習得し、一方では100名を超える履修生でのグループワークを実施し、できるだけ日常の学生生活の中に存在する問いをもとにワークショップを実施しました。</p> <p>特に、各自の3年後の理想的な進路を考えるという問いにおいては、各々の切実な悩みや視点をグループ内で共有し、大学生活の過ごし方の組み立てを行い、ワークショップの日常における活用手法についても体感できたのではないかと思います。</p> <p>最終課題はチームごとに「オリジナルワークショップをデザインする」という課題に取り組み、全てのグループにおいて高いクオリティを持ったワークショップ提案を構築できたのではないかと思います。そして、ファシリテーション側に選ばれたチームは、チーム内での協働を図りながら、参加者として参加する他学生たちを振る舞うなど、実践的な学びの成果であったと感じます。</p> <p>100名を超える履修生という演習の中で、各チームでの発表時間は短くならざるを得ないという課題もありましたが、そのような状況においても、一人ひとりがチーム内で積極的に役割を持って授業に取り組んでいる姿に少し安心しました。</p>